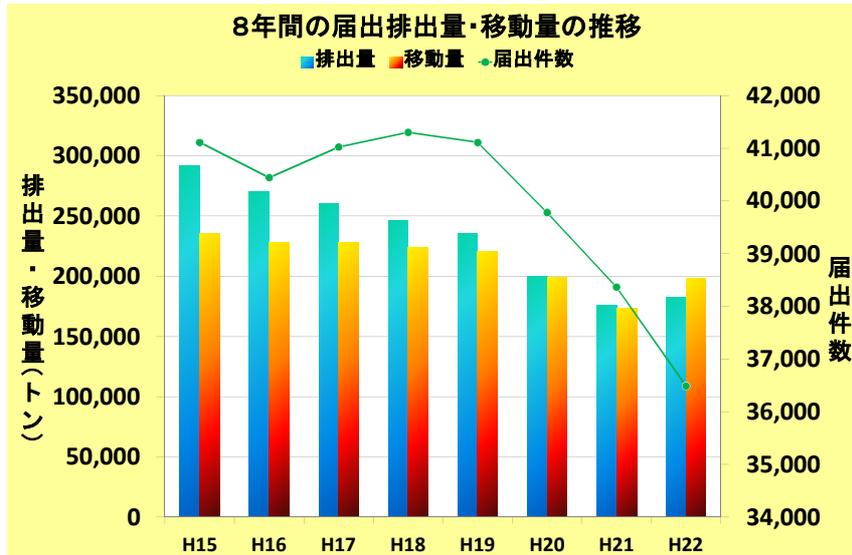


化学物質管理センターリスク管理課では、PRTR制度に基づく届出の事務処理から集計までの化管法※施行支援業務を行うとともに、過年度とのPRTR届出データとの比較解析も行っています。

※特定化学物質の環境への排出量の把握等及び環境の改善の促進に関する法律

## 届出件数、排出量及び移動量（過年度比較）

化管法につきましては、H11に公布され、H13から把握が開始されましたが、H15把握分から、届出事業所の対象化学物質の取扱量の要件が変更されたため、下記グラフでは、H15把握分からのグラフとしました。



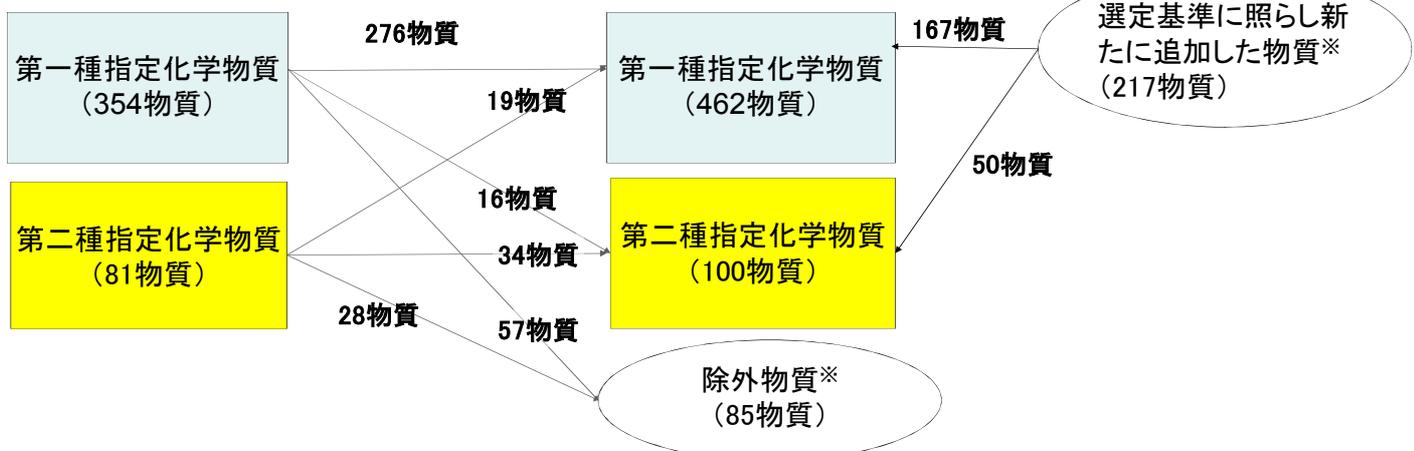
届出件数について前年度に対する減少率を比較すると、H22では、H21と比べて若干減少率が大きくなっており、政令改正の影響を受けています。また、排出量及び移動量については、H15からH21にかけて継続的に減少傾向にあったが、H22では増加しており、政令改正による影響を大きく受けています。

## 政令改正に伴う変更点

### 政令改正に伴う物質の変更

＜政令改正前(435物質)＞  
選定基準に照らし見直した物質

＜政令改正後(562物質)＞  
選定基準に合致した物質



※政令改正時の見直しの際に、最新の有害性情報または、暴露量が選定基準に合致しないもの等は除外となる一方で、有害性や暴露量が選定基準に合致するものが新たに追加されました。

### 政令改正に伴う業種の変更

政令改正前、大学病院は高等教育機関の附属施設として対象となっていたが、医療業は対象業種に指定されていませんでした。化管法制定時と比べ、医療業全体として、個々の事業者による取扱量が増加傾向にあり、第一種指定化学物質を環境中に排出する可能性が高いことから、医療業が追加されました。

### 政令改正による影響

改正政令に基づく、排出量等の把握は、H22から行われたことから、改正政令前のH21と比較し、政令改正の影響を解析しました。

#### 届出件数への影響

事業所の分類	届出件数		H21とH22の差 [B]-[A]
	H21 [A]	H22 [B]	
追加物質事業所（医療業除く <sup>※</sup> ）	0	983	983
医療業だけを営んでいる事業所	0	62	62
除外物質事業所	1,975	0	-1,975
継続物質を届出している事業所 （医療業除く <sup>※</sup> ）	36,393	35,446	-947
全事業所合計	38,368	36,491	-1,877

→ -930件

※医療業の事業所は全て「医療業だけを営んでいる事業所」に分類しているため、除いています

上表のように政令改正に伴う届出件数の増加数は業種追加（医療業）よりも物質追加による影響が大きくなっています。一方で、除外物質のみを取り扱っていた事業所（除外物質事業所）の減少数が大きいこと政令改正の影響は減少傾向となって現れています。

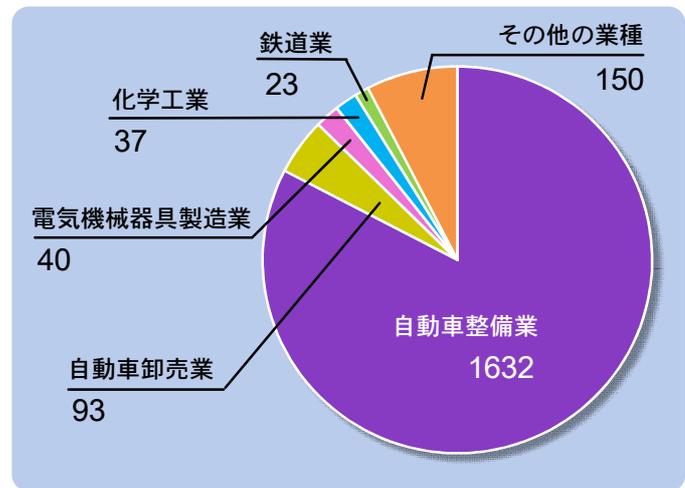
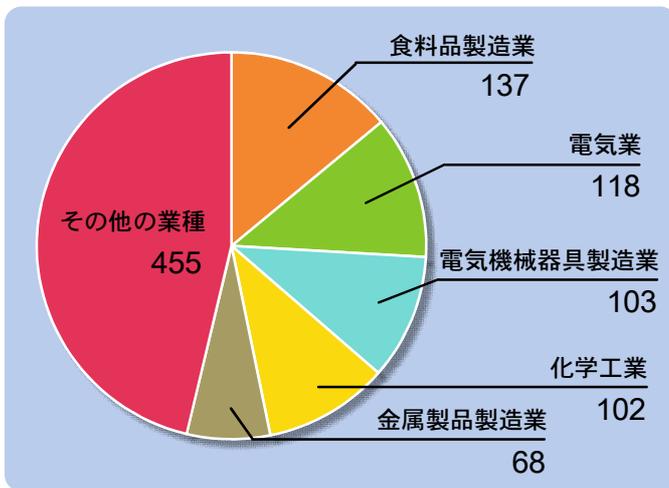
また、平成22年度に継続物質を取り扱っていた事業所に対する平成21年度との減少率は、従前の減少率と比較して変化が少ないことから、届出件数の減少は政令改正の影響が大きかったことが判ります。

上表の追加物質事業所（医療業を除く）の届出件数増加と除外物質事業所の届出件数減少のそれぞれの業種の届出件数上位5業種については以下のグラフの状況です。なお、上位5業種以外は、その他の業種として示しています。

これにより、除外物質事業所では自動車整備業が大きな影響を及ぼしていることがわかります。

〔追加物質事業所（医療業除く）の届出件数上位5業種〕

〔除外物質事業所の届出件数上位5業種〕



#### 排出量及び移動量への影響

物質の分類	排出量・移動量合計（トン）		H21とH22の差 [B]-[A]
	H21 [A]	H22 [B]	
追加物質（医療業除く <sup>※</sup> ）	0	46,503	46,503
医療業が届け出ている対象物質	0	64	64
除外物質	12,226	0	-12,226
継続物質（医療業除く <sup>※</sup> ）	336,845	334,264	-2,581
全事業所合計	349,071	380,831	31,761

→ +34,341トン

※医療業が届け出ている対象物質は全て「医療業が届け出ている対象物質」に分類しているため、除いています

政令改正による排出・移動量への影響では、対象物質の除外により約1.2万トンの減少がある一方で、追加物質により4.6万トンの増加があり、従来の減少傾向から増加傾向に転じています。その理由としては、追加物質の65%を占めるノルマルヘキサンと塩化第二鉄の排出・移動量が除外物質の69%を占めるエチレンジクロールの排出・移動量を大きく上回っていることによります。